

## 令和3年度新潟市介護福祉士養成校学生表彰式 学生スピーチ



令和4年2月27日に令和3年度新潟市介護福祉士養成校学生表彰式を開催いたしました。表彰式において、受賞者の皆様より発表いただいたスピーチをご紹介します。

国際こども・福祉カレッジ 阿部 楓さん

国際こども・福祉カレッジ 阿部楓です。よろしくお願い致します。

私が介護福祉士を目指した理由は、大好きだった曾祖父にあります。曾祖父は目が見えず、常に周囲からの支援を受けて生活していました。

私が小学生のころ、自宅で曾祖父と介護職員の方のやり取りを見る機会がありました。

その中で驚いたことがあったのですが、介護職員の方が目が見えない曾祖父の目を見て話しかけていたことです。私は目が見えない曾祖父の目を見て話しかけてくれたことに対する嬉しさと、なぜ見えないのに目を見て話す必要があるのかということに疑問を持ちました。小学生の私には理由はわかりませんでした。漠然とその職員の方が曾祖父を大切にしてくれているからではないかと思いました。

私はそれを嬉しく感じ、介護というものに興味を持つきっかけにもなりました。そして、利用者様に寄り添える介護福祉士になりたいと思うようになったきっかけでもありました。

学生生活で学んだ技術や知識を生かしながら、私が目指す専門職としての理想は「その人らしい」生活を大切に、支えられるようになることです。特に授業や実習では利用者様を自分に置き換えてどのような支援が必要か、その場合の気分はどうかなどを考えて対応してきました。

最後の実習では、一人の利用者様を受け持たせていただき、コミュニケーションを図り、思いを伺いアセスメントし、そこから生活課題を導き出し、その人らしい生活が送られるよう介護計画を立て実施させていただきました。

自分の考えた支援を実施させていただくまえに、職員の方に見ていただき、指導を受けました。支援の内容としては楽しんでいただけたものもありましたが、反省点も多くありました。アセスメントと実施内容がしっかり結びついていなければいけなかったことや、もっと広い視野を持っていれば実施内容の幅を大きくすることもできたのではないかと考えました。

私の理想である「利用者に寄り添える介護福祉士」は常に利用者さまと密にかかわることで、その方の真のニーズを引き出し、利用者様に寄り添えるのではないかと、また、利用者様に寄り添う姿勢を大切にすることで真のニーズを引き出すことができるのではないかと考えます。利用者様主体ということ、利用者様の人生に携わらせていただけるとことを意識し、常に1番近くで寄り添える立場として支援していきたいと考えます。

4月から、小学生のころからの夢だった介護福祉士として働き、社会に貢献できることをとても誇りに思います。自分の理想の介護福祉士になれるよう、この初心の気持ちを忘れず、持ち前の明るい性格で利用者様に寄り添っていきます。また、社会人としての責任と自覚をもって過ごせるよう日々、努力してまいります。ご清聴、ありがとうございました。

新潟青陵大学社会福祉学科 二戸 夏澄さん

本日は、私たちのために、このような表彰式を用意してくださいましたことを、深く感謝申し上げます。

私が学生生活で力を入れてきたことは、介護施設での実習です。4年間に渡り様々な福祉施設で介護実習を行ってきました。特に、大学2年生の介護実習では、個別支援計画の作成・実施を行いました。計画通りにいかないことも多く、壁にぶつかることもありましたが、職員の方々や先生に相談したり、友人と支え合いながら乗り越えることができました。この経験を介護現場でも活かし、利用者の方のニーズに合った支援を提供できるように心掛けていきたいです。

介護業界について、私は大学に入学するまで詳しく知りませんでしたが、大学での講義や介護実習を通して、現場の雰囲気や介護の難しさを改めて感じました。しかし、その分やりがいのある仕事でもあると思いました。私もこれからの介護業界を担う一員として、力になれるように努めていきたいと思っています。また、今回の表彰を受け、新潟市の介護業界が発展していけるように決意を新たに頑張ります。

就職後は、失敗を恐れず利用者の方との関わりを大切にしたいと考えています。利用者の方の生活に関わることは楽しい事や嬉しい事ばかりではなく、辛い事や悲しい事も多々あると思います。そのような出来事も含めて、最終的に任せて良かったと信頼される介護福祉士になりたいです。また、コロナ渦で利用者の方が家族と面会できる機会が減っているのではないかと思います。非対面でも家族とのコミュニケーションがとれるような工夫をし、利用者の方や家族の気持ちに寄り添えるようになりたいです。そのためにも、介護の知識と技術を身につけスキルアップを目指していきたいと考えています。

今後はこの表彰を心の支えとして、表彰の榮譽に恥じぬよう努力していきたいと思っております。

このような機会をいただき、本当にありがとうございました。

-----  
新潟医療福祉カレッジ 中川 七海さん

私が2年間の学校生活で特に力を入れたことは実習です。コロナウイルスの影響で例年より限られた時間ではありましたが実習先の介護現場で多くのことを学びました。利用者の方への介助では学生同士の実施とは異なり、一部介助や全介助など対象に応じて変える必要がありました。そのため始めの頃は自分の介助によってケガをさせてしまうのではないかとという恐怖心もありました。しかし、職員の方が介助のしやすい方法を教えてくださったり、利用者の方から「ありがとう」と感謝の言葉を頂いたりしました。また、学生が企画をしレクリエーションを行う場面では、利用者の方々に楽しんでいただけるように苦戦しつつも真剣に取り組みました。結果、レクリエーションを通し、利用者の方の楽しそうな表情や発言がみられました。これらの経験からやりがいや喜びを感じ、介護という職業の素晴らしさを再確認することができました。私は将来、細やかな配慮ができ利用者の方に寄り添った介護を行うことができる介護福祉士になりたいと考えています。

ある実習先で利用者の方が「あの人はよく周りを見ていて何もなくても声をかけて気にかけてくれるんだよ。」と1人の職員の方を褒めていらっしゃいました。その職員の方は常に周りを見ていて困っている人をいち早く見つけ手助けをしていたり、些細なことでも声をかけ利用者の方を気にかけていました。私もそのような介護福祉士になりたいと思いました。介護は利用者の方の人生の最後まで関わることができます。利用者の方が最後の最後まで素敵な人生を過ごせるようにするた

めにも常に細やかな配慮ができ利用者の方に寄り添った介助を行うことができる介護福祉士になれるよう日々努力していきたいと思います。

今、世間ではコロナウイルスの流行により、医療現場、介護現場においても大変な状況の中過ごされていることと思います。コロナウイルスの影響で利用者の方の楽しみであるイベントや日常生活においても制限がかかっています。いち早く、コロナウイルスの収束と共に以前の生活に戻れることを祈りつつ、学校での学びを活かし介護現場で役に立てるよう努力していきます。

新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科介護福祉コース 小竹 隼さん

皆さん、こんにちは。新潟医療福祉大学社会福祉学部社会福祉学科介護福祉コースの小竹隼と申します。この度は、「新潟市介護福祉士養成校学生表彰」において、表彰をしていただきまして、誠に、ありがとうございました。

話の内容は、2点です。一つ目は、大学生活の中で行ってきたボランティアや地域貢献活動についてです。二つ目は、目指す福祉専門職としての抱負と就業環境への想いです。

まず、私が大学生活の中で、行ってきた主なボランティアや地域貢献活動ですが、新潟市内の中学校で「福祉学習をとおして大学生から生き方を学ぶ」や「ゲストティーチャー講座」の講師を務め、生徒さんに対して介護の理解を深める活動を行ってきました。また、新潟市北区では、「大学生による家庭介護セミナー」の事業で、区民と交流しながら介護の基本的知識・技術を実演する活動を行いました。介護福祉に関係すること以外でも、新潟市からの受託事業である「新潟水俣病患者支援健康教室」や、新潟県からの受託事業である「新潟水俣病関連情報発信事業」において、新潟水俣病患者さんの支援を行ってきました。

次に、目指す福祉専門職としての抱負と就業環境への想いです。私は、介護福祉士と社会福祉士の二つの国家資格取得を目指しています。このダブルライセンスを生かして、視野の広い専門職として福祉現場で働きたいと思っています。

介護福祉士で言えば、私の笑顔の先に利用者様の笑顔がある。そのような介護福祉士を目指したいと考えています。そのためには、表情豊かに利用者様と接していくことが必要です。介護実習で体験したことです。笑顔を意識すると、利用者様も笑顔で挨拶をしてくださり、介助時には「介護が上手だね」と返していただけるようになりました。笑顔が笑顔を呼ぶことを実感した瞬間でした。また、利用者様に寄り添うために、相手の気持ちや考えていることを理解しようとする姿勢です。利用者様が悩んでいれば、笑顔だけで解決できるものではありません。共感的に相手に寄り添い、相手を理解しようと思いがけたいと思います。このようなことを、介護を行っていく中で自然に行えるようになりたいと考えています。もっと言えば、当たり前のことを当たり前のようにできるように成長していきたいと思っています。

介護福祉の人材は、まだまだ、足りていないと言われていますが、私は、量的な人材確保だけではなく、質的に介護福祉のレベルを技術的にも、理論的にも上げていくことも重要だと考えています。我々のような、若い力がどんどん成長していけるような就業環境が整えられていくことを望んでいます。

最後に、私をこのような機会に導いてくださいました皆さまに心から感謝を申し上げます。